

## 虐待の世代間連鎖を断ち切った母親の特徴と要因 —妊娠前から出産後に焦点を当てて

Mothers who successfully break free of cyclic generational abuse  
-Analyzing their characteristics before, during and after pregnancy

ハーン 彩織  
Saori Hearn

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻 修士課程

キーワード：虐待，世代間連鎖，周産期

Key words : Abuse, Cyclic of abuse, Perinatal period

### 1. 問題と目的

近年の日本社会は、晩産化や核家族化、女性の社会進出や育児の孤立化により、家庭や地域の中で育児経験を共有することが困難となってきた。また、長時間労働や父親の育児への関わりが不十分な中で、育児への社会的孤立が生みだされ、母親の負担が大きくなってきている。このような背景の中で、児童虐待は生きづらさの現われとして、身体的、精神的、社会的、経済的等の要因が複雑に絡み合って起こると考えられている

(厚生労働省)。平成27年に実施された厚生労働省による調査では、0歳～15歳の子どもがいる人を対象に、『子育てをしていて負担・不安に思う人の割合』が7割以上となっており、子どもの虐待は増加傾向である。虐待の背景には複合的な要因が絡んでおり、虐待をする保護者は様々な困難や葛藤を抱えている。又、自らの行為を虐待と気づいていない、認めない場合には、援助自体を求めないことも推測される。過度の躰として虐待が繰り返されている場合も虐待は見落とされやすく、連鎖は後を絶たない。このような虐待の連鎖を防ぐため、その背景と要因とプロセス、さらには虐待の連鎖を断ち切った母親の背景と要因やプロセスを明らかにすることを目的とする。

### 2. 方法

分析方法には、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(木下, 2003, 2007; 以下, M-GTAと略記)を用いた。本研究では、妊娠前、妊娠中、出産後に焦点を当てた心のプロセスに関する理論生成を目的としているため、M-GTAでの分析方法

がふさわしいと考え選定した。本研究のインタビュー対象者は母親7名であり、その内わけは子育て中の30代2名、40代1名、子育てを終了した40代1名、50代2名、70代1名となった。インタビューは半構造化面接とし2回行われた。インタビューの所要時間は1回につき90分程度とした。具体的な対象者7名の情報については、虐待の連鎖に至らなかった母親3名(Aさん・Bさん・Cさん)、連鎖をしてしまったが途中から連鎖を食い止めた母親1名(Eさん)、連鎖をしている対象者2名(Dさん・Gさん)、連鎖をしていた対象者1名(Fさん)である。

### 3. 結果と考察

妊娠前から出産後に焦点を当てた母親の心のプロセスを、M-GTAにより分析した結果、以下のようなストーリーラインが考えられた。

対象者は【原家族の家庭環境】を、当たり前の事実として捉えている。【幼少期の親子関係】を築いていく過程で、<親の前で強く見返す自分>を示したり、<偽善者に見える親>への気づきを得て[親への違和感と反抗]という心情が芽生えるケースがある一方で、[共依存問題]を抱えながら[原因は自分なので無でやり過ごす]という対処法で子ども時代を切り抜けていくケースがある。

【出産前後の不安感】では、出産前と後で不安の質に違いがある。出産は<親を一人の人間としてみる>きっかけとなり、[母となり見えてくる世界]として視野が広がってくる。しかしながら、産後は[桁違いの苦しみ]が経験される。

苦悩を抱える中で、対象者の親と【対話できな

い原因は自分がない】という気づきが芽生えてくる。出産後に我が子の世話が始めると、自らを育てた「親の育児への疑問」が浮上してくる。この疑問と対面する対象者は、子供時代に「親への違和感と反抗」を抱いていた者及び、「親への違和感と反抗」を抱えつつ「原因は自分なので無でやり過ごす」方法で親と接していた対象者である。

一方で、育児中も対象者の親に対して「親の育児への疑問」が湧くことは無く、成長していく「子供の自我を喜べない」という感情に直面する対象者がいる。「子供の自我を喜べない」気持ちと対面する対象者は、幼少期より親との「共依存問題」を抱えつつ、虐待される「原因は自分なので無でやり過ごす」子ども時代を過ごしており、「親への違和感と反抗」は示されなかった。

子育てが開始される段階で、各々の対象者において【虐待に対する認識の違い】に差が出てくるのがこの段階である。連鎖してしまう対象者は、「嫌だった経験を連鎖する謎」を抱えている。この謎に対して自分の繰り返している虐待行為に共感できる「真の理解者は母のはず」であると思ひ、母親に直面化した結果、対象者の親から心からの謝罪を受け取れる場合には「真の謝罪で満たされる心」に繋がっていく。

総じて、虐待の連鎖を「しない決断」をした対象者にも連鎖してしまった対象者においても、「自責と子どもへの罪悪感」は大なり小なり存在している。また罪悪感と共に「子どもの世界を知る」ことになる。「虐待を意識できない」または「意識されないと当然の躰」として虐待の連鎖をしていた対象者においては、自責や罪悪感が強いが故に、対象者の子どもへの【謝罪の気持ちの行動化】が促される。謝罪をした親と子どもの対話が持たれた後は、【子どもへ寄り添う思考】が見えてくる。

上記とは対照的に「親の育児への疑問」を感じ「(虐待)しない決断」ができた対象者においては、自責や罪悪感は弱く、「虐待しなかった自分への達成感」を子育て終盤に感じられる。このように対象者は、幼少期からの心情を経て出産、育児を通じ様々なプロセスを辿っていく。しかし最終的に母親となった対象者は、子どもへの謝罪や子育て達成感の有無に関わらず、自分の育てた子どもが、親である自分に対して抱く気持ちがすべての結果であると結論付けた。そして徐々に【自分を大切にしたい気持ち】が生まれてくる。しかし対象者の親から心からの謝罪が得られ一部の苦し

みが解き放たれたとしても、「漠然とした育児不安」や「重なる自分と怒りの渦」「虐待親の苦しみ」「自責と子どもへの罪悪感」が解消されることとは無関係である。それゆえ、対象者の「一生続く自分との戦い」は【終わらない苦悩】のように考えられる。

上記で明らかとなった分析を踏まえた上で、主に以下の点から考察した。

#### ① 『真の謝罪を巡る親子の心の構造について』

虐待の謝罪という行為においては、謝る親側の気持ち、受け取る子ども側の気持ちの相互作用ぬきでは語ることができない。分析から得られたデータを基に親子の心の構造について考えることで、親子間の対話に繋がらない原因、謝罪を受けたことで解決される子どもの心、謝罪を受けても続く葛藤について明らかとなった。

#### ② 『連鎖した対象者と連鎖しなかった対象者との違い』

連鎖しなかった対象者は、幼少期から「親からの違和感や反抗」を抱いており、その気持ちは産後子どもの育児を経験するなかで対象者の「親の育児への疑問」へと繋がっていた。

#### ③ 『内省力の高低が虐待の連鎖と繋がらないと考える理由』

先行研究では、虐待を繰り返さなかった親は、親にされた子育てについて振り返る力に長けており、されて嫌だったことを意識するという内省力が高いと指摘されているが、今回の分析から、虐待を意識できない原因は、対象者本人の幼少期における親への感情や心理的対処の違いから否応なく生じるものではないかと考えられた。

## 4. まとめと今後の課題

今後は本研究で明らかとなった虐待の連鎖を断ち切った母親の特徴と要因をふまえ、連鎖を続けている親に対し、幼少期に抱けなかった違和感を実感できるようにする支援による感情変容プロセスを検証していきたい。

## 引用・参考文献

- 青木紀久代, 神宮英夫 (2000). 子どもを持たないころころ 北大路書房
- 朴信永, 杉村伸一郎 (2006). (子育てにおける親の内省モデルの検討). 広島大学大学院教育学研究紀要 55, 373-381.
- Bowlby, J. (1969). *Attachment and loss ; vol. 1. Attachment.* Basic Press : New York. (Bowlby,

- J. (1991). 黒田実郎・大羽奏・岡田洋子他(訳) 母子関係の理論I 愛着行動 東京：岩崎学術出版
- Bowlby, J. (1973). *Attachment and loss; vol. 2. Separation*. London : Hogarth Press (Bowlby, J. (1991). 黒田実郎, 岡田洋子, 吉田恒子他(訳) 母子関係の理論II 分離不安. 東京：岩崎学術出版
- Briere, J., & Jordan, C. E. (2009). Childhood maltreatment, intervening variables, and adult psychological difficulties in women: An overview. *Trauma, Violence, & Abuse*, **10**(4), 375–388.
- 千崎美恵 (2019). 子育て支援のための理論と研究 不適切な養育の世代間連鎖を理解するブイソーション
- Christina, K. Holub., Trace, S. Kershaw., Kathleen, A. Ethier., Jessica, B. Lewis., Stephanie, Milan., Jeannette, R. Ickovics. (2007). Prenatal and parenting stress on adolescent maternal adjustment: Identifying a high-risk subgroup. *Maternal and Child Health Journal*, **11**, 153-159.
- ダニエル・N・スターン, ナディア・B・スターン, アリソン・フリーランド (2012). 母親になるということ 新しい「私」の誕生, 創元社
- Egeland, B. (1988). Breaking the cycle of abuse : Implications for prediction and intervention. In Brown, K. Davies, C. & Stratton, P. (Eds) *Early Prediction and Prevention of Child Abuse*. pp.87-99.
- Egeland, B., Jacobvitz, D., & Sroufe, L.A. (1988). Breaking the cycle of abuse *Child Development*, **59**, 1080-1088.
- Ruth Feldman., Ilanit Gloron., Inna Schneiderman., Omri Weisman., Orna Zagoory-Sharon. (2010). Natural variations in maternal and paternal care are associated with systematic changes in oxytocin following parent-infant contact. *Psychoneuroendocrinology*, **35**(8), 1133-1141
- 遠藤利彦 (2010). アタッチメント理論の現在：生涯発達と臨床実践の視座からその行動を占う. *教育心理学年報* **49**, 150-161.
- 福田佳織 (2004). 母親の被養育経験と乳児への感受性との関連 *家族心理学*, **8**, 85-98.
- 福島哲夫 (2016). 臨床現場で役立つ質的研究法——臨床心理学の卒論・修論から投稿論文まで 福島哲夫(編) 新曜社 pp35-49.
- Hammond, M. V., Landry, S. H., Swank, P. R., & Smith, K. E. (2000). Relation of mothers' affective developmental history and parenting behavior: Effects on infant medical risk. *American Journal of Orthopsychiatry*, **70**(1), 95–103.
- 花沢正一 (1977). 妊産婦の不安に関する心理学的研究 *日本大学文理学部人文科学研究所研究紀要* **19**, 107-125
- 林裕美, 横山恭子 (2010). ネガティブな被養育経験をもちながら適切な情緒反応性を示す母親の特性について: 負の世代 間連鎖を断ち切るために. *上智大学心理学年報* **34**, 33-42.
- 平木典子, 柏木恵子 (2015). 日本の親子 不安・怒りから新たな関係の創造へ 金子書房 pp.108-113.
- Hopkins, J. (1990). The observed infant of attachment theory. *British Journal of Psychotherapy*, **6**, 460-471.
- Kaufman, J., & Zigler, E. (1987). Do abused children become abusive parents? *American Journal of Orthopsychiatry*, **57**, 186-192.
- 木本美際・岡本祐子 (2007). 母親の被養育経験が子どもへの養育態度に及ぼす影響. *広島大学心理学研究*, **7**, 207-225
- 木下康仁 (2003). グラウンテッド・セオリー・アプローチの実践——質的研究へのいざない 弘文堂
- 木下康仁 (2007). ライブ講義 M-GTA——実践的質的研究法 修正版グラウンテッド・セオリー・アプローチのすべて 弘文堂
- Kinsey, C. and Hupcey, J. (2013). State of the science of maternal-infant bonding: A principle-based concept of analysis. *Midwifery*, **29**, 1314-1320.
- 北村俊則 (2019). 周産期ボンディングとボンディング障害—子どもを愛せない親たち ミネルヴァ書房
- Klaus, M. H., & Kennell, J. H. (1982). *Parent-infant bonding 2nd edition*. St. Louis, MO: C. V. Mosby.Co. (竹内徹, 柏木哲夫, 横尾京子(訳) (1985) 親と子のきずな 医学書院)
- Serge Lebovici (1988) Fantasmatic interaction and intergenerational transmission. *Infant Mental Health Journal*, **9**(1)
- Loesch, J. G., & Greenberg, N. H. (1962). Some specific areas of conflicts observed during pregnancy: A comparative study of married and



- unmarried pregnant women. *American Journal of Orthopsychiatry*, **32**(4), 624-636.
- Stephanie, Milan., Jessica, Lewis., Kathleen, Ethier., Trace, Kershaw, & Jeannette, R. Ickovics. (2001). The impact of physical maltreatment history on the adolescent mother-infant relationship: mediating and moderating effects during the transition to early parenthood. *Journal of Abnormal Child Psychology*, **32**, 249-261.
- 村井則子 (2002). 母親の心理学—母親の個性・態度— 東北大学出版会
- 中嶋みどり (2005). 保護者における児童虐待の認知の特徴と発達心理学的要因の検討. *発達心理学研究*, **16**, 72-80.
- 中谷奈美子・中谷素之 (2006). 母親の被害的認知が虐待的行為に及ぼす影響. *発達心理学研究*, **17**, 148-158.
- 西田千夏 (2015). 発達支援を受けている子供の親が子どもを洞察するプロセス: 親の内性機能が及ぼす影響の検討. *日本小児看護学会誌*, **2**, 10-17.
- 西澤哲 (1994). 子どもの虐待—子どもと家族への治療的アプローチ 誠信書房
- 西澤哲・屋内麻里 (2006). 虐待的行為につながる心理的特徴について: 虐待心性尺度 (Parental Abusive Attitude Inventory: PAAI) の開発に向けた予備的研究 児童福祉機関における思春期児童に対する心理的アセスメントの導入に関する研究. *分担研究報告書*.
- 大原美和子 (2003). 母親の虐待行動とリスクファクターの検討: 首都圏在住で幼児をもつ母親への児童虐待調査から. *社会福祉学*, **43**, 46-57.
- 岡本祐子 (2010). 成人発達臨床心理学の視点. 岡本祐子 (編) 成人発達臨床心理学ハンドブック ナカニシヤ出版
- 斉藤環 (2021). コロナ渦における「ひきこもり生活」がもたらす心理的影響. *労働政策研究・研修機構*, **729**, 84-89.
- Steele, B. F. (1986). Notes on the lasting effects of early child abuse throughout the life cycle. *Child Abuse*, **10**, 283-291.
- 郷久鉦二 (1978). 妊娠と心身医学—産婦人科婦人の心身症 金原出版
- 住田正樹 (2010). 子どもと社会シリーズ1 子どもと家族. 学文社, pp.86-89.
- 武内珠美. (1982). 経産婦が母親になるまでの心理的プロセスに関する研究. 広島大学大学院教育学研究科修士論文. (未公開)
- 田口理恵・河原智江・西留美子 (2014). 子どもの反抗的行動に対する認知を媒介とする母親の社会的健康と虐待的行為の関係. *小児保健研究*, **73**, 547-554.
- 渡辺久子 (2009). 子育て支援と世代間伝達—母子相互作用と心のケア 金剛出版
- Williams, C., Taylor, E. P., & Schwannauer, M. (2016). A web-based survey of mother-infant bond, attachment experiences, and metacognition in posttraumatic stress following childbirth. *Infant Mental Health Journal*, **37**, 259-273.
- Winnicott, D. W. (1956). Primary Maternal Preoccupation. *International Journal of Psychoanalysis*, London: Tavistock.) Winnicott, D. W. (1990). 原初の母性的没頭 (田中和子, 訳) 児童分析から精神分析—ヘーウィニコット臨床論文集II. (北山修, 監訳) 岩崎学術出版社
- 八木安理子・吉野絹子・刈野正美 (2006). 暴力連鎖と子育て不安との関連——今後の子育て支援に向けて 子供虐待とネグレクト, **8**(1), 143-152.

#### 付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成 (DB2334) 「虐待の世代間連鎖を断ち切った母親の特徴と要因—妊娠前から出産後に焦点を当てて」を受けたものです。